修復家から見た絵画の見方Ⅱ

講師　元ルーブル美術館修復員・絵画修復家　加賀優記子

修復家という仕事をしていると、展覧会に出掛けても、どうやら普通の方々とは違った絵の見方をしている様です。

古い絵の表面に現れた様々な現象からその絵画の持つ隠された歴史を読み取ったり、画家の歩んだ人生の軌跡を調べてゆくと、思いがけない一枚の絵に託された画家のメッセージを発見する事もあります。

パートⅠでは主に、絵画上に現われた様々な修復の跡や、画家の描いた構図、主題、様式等から「絵画を読み取る」方法を、モナ・リザの真贋を巡るエピソードを交えてお話し致しました。

加賀優記子 講師

パートⅡは主に、その時代的背景をイメージしつつ、画家の生きた生涯を考える事で、ゴーギャン、ゴヤ、ポントルモ等の、１枚の絵の中に隠された意味、秘密を発見してゆく方法をお話しします。「心で読む絵画」が今回のテーマです。

〈講師紹介〉かが・ゆきこ

1982年武蔵野美術短期大学油絵専攻科卒業。84年渡仏、パリ国立美術大学に学ぶ。86年ルーブル美術館修復家クリストフ・クシェジェンスキー氏に師事。クシェジェンスキー氏の弟子として、ルーブル美術館契約修復員となり、ルーブル宮殿天井画、コングルの間、ドラクロワ作サルダナパリュスの死、その他の修復作業に従事する。92～94年フランス国会議事堂ドラクロワ天井画他修復研修。90年「鎌倉美術修復工房」設立。ルノワール、モネ、ピカソ、レジェ、フジタ他日本の画家多数修復。IIC(THE INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CONSERVATION)会員。